



# みちてる

## 会報

### 2026

特定非営利活動法人NPOみちてる / 尾道市山波町2987番地 / TEL&FAX 0848-46-0951  
E-mail npo2006@c.do-up.com / <http://www.npo-michiteru.jpn.org>

## ご挨拶

特定非営利活動法人 NPOみちてる  
理事長 安部 昭一郎



平素より、NPOみちてるの活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

おかげさまで当法人は、本年、設立20周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたり活動を支えてくださった正会員の皆さま、賛助会員の皆さま、法人会員の皆さま、そして地域・社会の多くの方々のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

私たちは設立以来、「世界の平和と繁栄に寄与する」という大きな理念のもと、国際交流席を設けた瑠璃茶会の開催、施設訪問、コンサート等のさまざまな活動に取り組んでまいりました。なかでも、フィリピンの子どもたちへの教育支援は、未来を担う次世代を育む重要な活動として、継続して力を注いできた取り組みです。教育は、子どもたち一人ひとりの可能性を広げるだけでなく、地域や社会の持続的な発展、ひいては世界の平和と繁栄につながるものだと、私たちは信じています。

20周年という記念すべき年にあたり、これまでの歩みに感謝するとともに、支援の想いをさらに広げていくため、『設立20周年 チャリティーフェスティバル』を開催いたします。本フェスティバルは、フィリピンの子どもたちへの教育支援の大切さを多くの方と共有し、音楽や芸能を通して楽しみながら支援の輪を広げることを目的としています。子どもたちの未来を応援する気持ちが集い、国や文化を越えたつながりが生まれる場となることを願っております。

私たちはこれからも、設立当初の理念を胸に、現地の声に耳を傾けながら、フィリピンの子どもたちが学ぶ機会を得られる環境づくりに取り組んでまいります。今後とも、皆さまの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、皆さまのご健康とご多幸、そして当法人の活動がより一層社会に貢献できるものとなりますことをお祈り申し上げます。

# 2025年度 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー

## 2025年8月12日～17日

8月12日から17日の日程で関西福祉大学フィリピン・スタディツアーを開催させていただきました。NPOみちてるが依頼されて開催するスタディツアーは、参加者一人一人に実際に体験（チャレンジ）してもらうことで、通常の海外旅行や他団体のツアーでは得られない、NPOみちてるにしかできないツアーにしたいとの願いから参加者にはできるかぎり参加・体験してもらうチャレンジ（企画）を用意し、特別なスタディツアーになるよう企画しています。

### 1日目

今年度の参加者は、大学生6人、大学職員2人を併せての8人でした。ツアーへは、当法人常任理事が日本サイドのコーディネーターとして同行しました。初日は、午後に関西国際空港を出発しマニラに到着。その後、フィリピンサイドのコーディネーター・渡辺尚美氏と合流し、参加者にとっては初めてのフィリピン料理を夜食に、空港からレストランまでの町並みを見て感じた感想や明日からのツアーへの期待を共有するいい時間を過ごしました。この時、すでにチャレンジ①として事前学習してきたタガログ語（現地語）を駆使して参加者それぞれにオーダーをしてもらいました。

### 2日目

2日目は、チャレンジ②として、フィリピンの自転車タクシー（トライシクル）に乗ってローカルな体験をしました。次にチャレンジ③は、「いろんなお店（町の小売店／サリサリストア、コンビニ、スーパー）で翌日訪問させてもらう家庭へのお土産を買おう」というチャレンジをしました。男女2チームに分かれて予算内で決められたお土産を決められた数購入しなければいけないルールがあるため、まず品物があるかどうか？また値段はいくらなのか？という会話が必要なチャレンジでしたので、それぞれ悪戦苦闘しながらもチャレンジをクリアしました。チャレンジ④は、フィリピンで大人気のファストフード・ジョリビーで各自オーダーをし、昼食としました。午後からは、フィリピンの乗り合いバスともいえるジブニーを乗り継いで移動し現地の庶民の足を体験し、ホテルに戻り今日一日のシェアリングをしました。その後、チャレンジ⑤として、現地通貨ペソへの両替体験をし、初日を締めくくりました。

### 3日目

3日目は、かつてのスモークマウンテンのふもとに建てられたSRD コンコウキョウセンター（保育園）を訪問し、支援地域を視察①として見学しました。チャレンジ⑥は、同センターで、子ども達と日本から持参した材料でスライムを一緒に作ったり、福笑いなどをして交流したのち、チャレンジ⑦として昼食にフィリピンの家庭で食べられている家庭料理をいただきました。午後からは視察②として同センターに通っている子どもの家を3軒訪問し、それぞれの暮らしぶりについてインタビューし、チャレンジ⑧で購入したお土産を説明を交えながらプレゼントしました。その後、視察③として最小自治体のクリニックを訪問し、実際現場で医療にあたっている医師や看護師の方々へのインタビューや、施設の説明などを受けました。



SRDで子どもたちとスライム作り



現地のクリニック訪問



## 4日目

4日目は、視察④としてマニラ大聖堂やイントラムロスを散策し、フィリピンの歴史を勉強することが出来ました。その後、フィリピン最大の卸売街のディビソリアを視察⑤として行い、チャレンジ⑧は、ローカルのフードコートでそれぞれに味を想像しながら注文し昼食を摂りました。チャレンジ⑨は、グループに分かれて翌日訪問する団体 KSK（Kabataang Sambayanang kristiyano）での企画のために、英語とタガログ語を駆使し値引き交渉をし、予算内でプレゼントを購入できるかというチャレンジを行いました。この市場は元々値段設定も卸値価格のため値引きが厳しい中、学生たちは一生懸命英語やタガログ語を使い、身振り手振りでなんとか意思疎通をし、外国人という特性を生かして2グループとも値段交渉し、チャレンジに取り組みました。



KSKでの交流



KSKでのドーナツ作り

## 5日目

5日目は、チャレンジ⑩としてその後、スモーキーマウンテンの貧困家庭の子ども達を支援している団体 KSK を訪問し、チャレンジ⑧で購入したプレゼントのエピソード等をグループ毎に英語とタガログ語を使って紹介し、KSK のメンバーと交流し、チャレンジ⑪として KSK の厨房のない施設で、火をおこし焚火でおやつミニドーナツを日本から持ってきた材料で作りと、KSK の子どもたちやスタッフに振る舞いました。みんな喜んでくれ、残ったホットケーキミックスもお持ち帰りのリクエストもあったくらい好評でした。この最後のチャレンジをもって2025年度のスタディツアーを締めくくりました。

## 2025年 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー 参加者の感想

当初抱いていた「人が多くて発展していない国」という印象は完全に覆されました。フレンドリーな人々、美味しい料理、温かい交流を通じて、フィリピンは「大好きな国」へと変わりました。怖かったことといえば、日本人が撃たれたというニュースに触れた時くらいで、それ以外は安全に、楽しく、充実した体験を積むことができました。特に、旅行では体験できない子どもたちとのふれあいや家庭訪問、クリニック訪問を通して、異文化の現実を自分の目で確かめることができたことが何よりの学びでした。

参加して、私は自分の凝り固まった考え方を自覚し、異文化に対する知識や理解を深めるとともに、物事を多角的に捉えることの重要性を学びました。この経験は、今後の私の人生において、大きな財産になると確信しています。この充実した内容とリーズナブルな料金を考えると、このスタディツアーは、知的好奇心旺盛な後輩や友人にも心から勧めたいプログラムです。

## 2025年 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー 参加者の感想

このツアー全体を通じて、観光旅行では決してできない体験を重ねることができました。病院やクリニック、教育施設の訪問、そして地域の人々との交流は、自分の視野を大きく広げる機会となりました。看護を目指す人にとっては特に貴重な体験であり、そうでなくても現地の医療や暮らしを知ることには将来に必ず役立つと思います。また、先生方やスタッフの方々が私たちの希望を尊重し、安心して活動できるようサポートしてくださったことに心から感謝しています。今回の参加を通じて、積極的にコミュニケーションを取る力や異文化への理解が深まりました。さらに、日本での生活を「当たり前」と思わず、一つ一つに感謝して生きる大切さを実感しました。出国の際には「まだフィリピンにいたい」と感じるほど充実した時間であり、学生のうちにこのような体験をする意義を強く感じました。後輩や友人にもぜひ勧めたいですし、今後はフィリピンの学生が日本を訪れ、交流できるようなプログラムがあればさらに有意義だと思います。今回のツアーは、自分の考え方や価値観を大きく広げ、今後の人生に必ずつながる経験となりました。勇気を出して参加して本当に良かったと心から感じています。

このスタディツアー全体を通して、初めに抱いた想像は完全に覆され、思い出にも学びにもなる最高に楽しい時間となりました。スタッフの方々が私たちの好奇心を大切に、安全を考慮しつつも可能な限り経験させてくれたおかげで、主体的な学びと気づきが得られました。歴史や教育、社会課題など、学びの要素も多岐にわたり、私自身の興味関心を深掘りするきっかけにもなりました。このプログラムに参加したことで、私は「改めて子どもが好きだということ」「貧困地域への興味関心が深いこと」に気づくことができました。そして、「幸せの基準は自分で作るものであり、日本に生まれた以上、世界基準で見れば恵まれていること」を深く理解しました。挑戦や失敗ができる環境、周りの人を思いやるくらいの余裕のある暮らしができることの尊さを忘れずに生きていきたいと強く思っています。自己成長を大いに実感する貴重な経験となりました。

スタディツアーは、観光では決して得られない経験の連続だった。特に、子どもたちとの交流は、将来看護師を目指す私にとって「人と向き合う」ことの大切さを再認識させてくれた。語学力不足や危険を感じる場面もあったが、その一つ一つが学びとなった。今回のツアーでは教育について学ぶ場面が多くあったが、看護学部自分もこの経験を通じて、「知識や技術だけでなく、人間性を大切にする看護師になりたい」という気持ちがより強くなった。フィリピンで見た笑顔と現実を忘れず、今後の学びにつなげていきたい。

スタディツアーを通して、私は言葉や文化の違いを超えたコミュニケーションの楽しさ、現地の生活や歴史・文化の奥深さ、教育や地域活動の重要性を学ぶことができた。短期間ながら多くの体験を通して視野が広がり、自己成長を実感する貴重な経験となった。今回の経験は、今後の学びや日常生活においても大きな糧となると感じている。他にも、このツアーで自己成長の大切さを実感することもできた。短い期間でしたが、スタッフの方々のサポートのおかげで、安全に、楽しくフィリピンのことについて学ぶことができました。スケジュール組みから現地の案内、翻訳、貴重なお話など、数え切れないほど私たちのために尽くしてくださり、本当に感謝しかありません。改めて1週間ありがとうございました。人生で最強に貴重な経験になりました。





# B.S.尾道第1団ローバースカウト・フィリピンスタディーツアーのご報告

2025年10月31日～11月4日

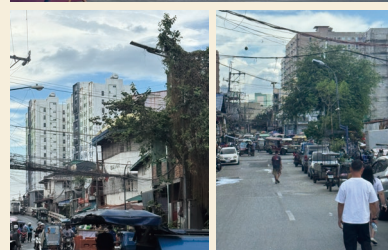
## 参加者

金光浩行常任理事、

B.S.尾道第1団ローバースカウト：細木匠、實廣 芯之助、副長：中島啓太

## 趣 旨

2026年7月5日に開催されるチャリティーフェスティバルに奨学生として学業に勤しむ2人を招待するにあたって、実行委員の学生2人が現地での生活環境を肌で感じることでNPOみちてるによる支援がどのように活かされ、喜ばれているのかを学ぶことを目的として実行された。



## 参加スカウトの感想



細木 匠

「幸せ」の定義は大きく覆されました。現地での生活は、常に自らの身を守る緊張感と隣り合わせでした。特にスラム地区の空気感は、安全が当たり前前の日本とは対極にあります。しかし、その過酷とも言える環境下で私が目にしたのは、日本人から見て「貧困」とされる状況を裏切るような、人々の輝く笑顔でした。「物が無いから不幸」というのは、日本的な価値観が生んだ思い込みで過ぎなかったのではないかと。彼らの豊かさに触れ、私は自分がいかに既成の価値観に縛られていたかを痛感しました。この学びを糧に、当たり前の日常を新たな視点で捉え直していきたいと考えています。

實廣 芯之助

自分は今回のフィリピンの旅が初めての海外でした。正直不安な中、マニラに着くとそこから驚きの連続でした。日本とは違いクラクションが鳴り響き、車の車線もないような感じで怖いなと思いました。次の日はスラムに行ってきた所でどう生活するんだ?と思い、そこまでフィリピンに良い印象はありませんでした。しかし、現地の人が笑顔で迎えてくれて温かくて、そこから一気にフィリピンっていい国だなと思いました。どれだけ自分が貧しくてもみんなが笑顔で幸せそうで素直で前を向いていました。僕はこの体験を通じて裕福だから幸せ貧乏だから不幸ということは決してないんだと感じました。



## 第20回瑠璃茶会 開催 2025年11月2日(日)

平成15(2003)年4月26日から始まった瑠璃茶会が、第20回を迎えました。

午前中2席、午後4席、追加1席の計7席で、約250人に秋のお茶席を楽しんでもらえました。お茶席や点心席の会場づくりや受付や駐車場のお世話からお席でのおもてなしなど、全て手作りのこのお茶会も20回となり、参加者には記念の「懐紙など」が配られました。

なお、午前中の国際交流席2席には、海外からの留学生(高校生3名)や市内の小中学校で英語指導の補助をされるALT(外国人指導助手・3名)をはじめ、市長、教育長はじめとする行政関係者、AFS(留学生お世話係)スタッフ、マスコミ関係者等、計17名を招待者としてお迎えしました。同席するスカウト(22名)や保護者、指導者等、関係者40名は、ALTや留学生と名刺交換したり、全員で輪になって歌ったり、2班に分かれてお茶や点心を頂いたり、お庭で雅楽鑑賞をするなど、国際交流を満喫することができました。





## ■ スターライトクラブ(S.L.C)

2025年は、前年に再開した施設訪問を実施しました。

スターライトクラブやコーラス・ソサイエティだけでなく、個人参加で「手品」の披露、そしてコーラスメンバーの中から「体操」や「トランペット演奏」などを行いました。私達は「マツケンサンバ」を踊りました。

1施設は2年連続訪問となりましたので、コーラスでは歌に合わせて寸劇を披露するなど変化のあるものができ、喜んでいただけたと思っています。

また、11月27日～28日にかけて、スターライトクラブのメンバーを中心に山口県湯田温泉の旅館『西の雅・常盤』にて女将劇場を観劇し、新たに情熱とインスピレーションをいただきました。

今後も皆さんの協力を仰ぎながら施設訪問を実施したいと考えています。



『西の雅・常盤』にて。女将と



山口旅行

## 施設訪問



## ■ みちてる・ミュージック・ソサイエティ(MMS)

みちてる・ミュージック・ソサイエティです。

昨年は対外活動は殆どありませんでしたが、ただひたすら今年7月5日開催が決定したチャリティーフェスティバルに向けて、企画運営や新人発掘、個々人のスキルアップなど、月1～2回の日曜夕方方に楽しく元気に練習を重ねてまいりました。

NPOみちてる設立20年記念の年に、再びテアトロシェルネのステージで演奏できるので、みんなワクワクしています♪

今回のステージは「国際交流」の活動報告会のほか、他団体のアゲアゲステージ演奏、楽しい全体ダンス、コーラス、そしてバレエスタジオ「Angelet」様との生演奏コラボ（曲目はスター・ウォーズとか!?）等など、盛り沢山の内容になっています。ご期待ください!!

団員はいつも募集中です。よろしくお願い申し上げます。



M.M.S.練習風景



## みちてる・コーラス・ソサイエティ(MCS)



みちてる・コーラスソサイエティーは、2025年度、15曲の歌を練習し、皆様に聞いていただきました。

戦後80年、「ひろしま平和の歌」を歌ったり、日本昔話の「にんげんっていいな」や、やなせ・たかし作詞の「手のひらを太陽に」を歌ったりする中で、今生きていることに感謝し、世界中の人々が平穏で幸せに過ごせますようにと祈りました。

また、二つの施設で訪問演奏させていただきました。今回は「明日があるさ」をミュージカル風にして楽しんで観ていただきました。いいえ、楽しんだのは私たちメンバーの方で、練習中は、笑いが絶えませんでした。恥ずかしさを振り払って、踊ったり、歌ったり、動作をつけたり……。この新しいチャレンジで、メンバーの表現力が一段とレベルアップしたように感じています。

次年度は、大阪での音楽祭が5月31日に、チャリティーフェスティバルが7月5日に計画されています。会場の皆様に歌う喜びが伝わるように「笑顔で」「歌詞をはっきりと響かそう」と声掛け合って練習してまいります。

歌が好きな方、毎月8日、16日、26日に10時45分からセンターで練習していますので、是非お越しください。一緒に歌い笑いましょう♪

### 練習風景



### MCS 訪問



MCS金光町会堂発表後